

[002]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7357536>

出版情報：ポリモルフィア. 2, 2017-03-31. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

審査総評

2015 年度ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム

野々村淑子

九州大学男女共同参画推進室 学生教育等部門長
大学院人間環境学研究院 教授

2010年度から始まった学生対象のジェンダー研究助成制度は、2015年度で6年目を迎える。このようなジェンダーの視点を持つ研究を促進することを目的とした学生支援の活動は、国内では珍しい取り組みとして評価されている。公募は、毎年6月頃に開始され、助成の対象は学部および21世紀プログラムの学生、博士前期・後期課程の学生である。男女共同参画推進室学生教育等部門の教員の審査により、助成対象者と金額が決定される。公募に際し、学内の広報についてはポスターの掲示だけでなく、3年前からは学生ポータルやホームページによる情報提供も行っている。ポスターは、制度の開始初年度から学生教育等部門の室員であった、芸術工学研究院の尾方義人准教授に依頼している。視覚的にも学生たちの記憶に定着するよう、周知を拡げる目的で、デザイン自体に変更は加えず、毎年同じデザインのポスターを掲載することにしている。

これまでに助成対象になった研究の領域としては、経済、芸術、医療、介護メディア、防災、臨床心理、政治、スポーツ、文学、歴史、建築、発達心理、漫画、労働、教育が挙げられ、対象領域は年々広範囲に広がってきている。応募者が少なかった時期には、できるだけ多くの研究計画を採用することに合意してきたが、応募者が増加した現状では、研究計画の審査基準をより明確にし、審査時点での協議に時間をかける必要があるだろう。

2015年度は、21名の応募があり13名を採択した。採択者の内訳は、博士後期課程6名、博士前期課程6名、21世紀プログラムの学生が1名であり、人文科学府、地球社会統合科学府、人間環境学府からの応募が多く、芸術工学府、比較社会文化学府からの応募もあった。

2016年2月22日に「ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム平成27年度報告会」を箱崎理系地区21世紀交流プラザⅠで実施し、採択者による研究報告会が開催された。報告会では、江戸時代のジェンダーに関する政治的側面からの研究、性の多様性と教育に関する国際比較研究など、様々な側面からジェンダーに関わる問題に学問的アプローチが紹介された。会場では、参加者から研究設計、研究内容について厳しい指摘が出され、ディスカッションが行われた。学生教育等部門では、このプログラムの質を高めていくために、審査方法、広報手段などを引き続き検討する予定である。なお、

この研究助成プログラムは、採択者の研究成果を3月末に報告書にまとめ、希望者に配付している。

2015年度採択者と採択テーマ一覧

名前	所属	学年	タイトル
北田 瑞希	21世紀プログラム	2	社会のジェンダー観がセクシャルマイノリティに与える影響
賀 佳	芸術工学府	M1	授乳行為の研究－姿勢や空間からの分析
張 天奇	地球社会統合科学府	M2	Male Homosexuality in Contemporary Japan from the Perspective of Younger Generation
李 睿	地球社会統合科学府	M2	Analysis of Housing Inequality and Social Stratification through Perspective of Gender in Urban China
原 慶彦	人文科学府	M2	幕藩制におけるジェンダー・ポリティックスに関する研究－島津家を事例に－
葛 秋月	人間環境学府	M2	清末時期における福州での出産・乳幼児保護に関する医療宣教活動
張 琦	人間環境学府	M2	中国明末清初期の江南地区における顧氏一族の「母教」
草野 舞	人間環境学府	D1	福祉国家制度成立期のイギリスにおける児童虐待とジェンダー
川添 茜	人間環境学府	D2	デートDVに対する友人による支援のあり方について
眞野 豊	地球社会統合科学府	D2	“性の多様性と教育”についての国際比較
幸山 智子	人文科学府	D3	ユダヤ系女性作家の冷戦初期作品群にみるジェンダー規範への抵抗
翁 文静	人間環境学府	D3	中国都市部における家政婦の実態に関する一考察－上海市の育兒嫂(sao)を中心に
里村和歌子	比較社会文化学府	D3	主婦と労働の「対抗的創造性」－「雇われない」という労働実践を事例に

注) 所属および学年は、平成28年2月時点